

法然 ホウネン 1133～1212

平安後期・鎌倉前期の僧、日本浄土宗の開祖。鎌倉新仏教の先駆者でもある。名を源空といい、その房号により法然上人と呼ばれた。また、その住んだ場所に因んで吉水上人、黒谷上人などとも称された。

長承3(1133)年、美作国(岡山県)久米郡の押領使、漆間(うるま)時国の子として生まれる。保延7(1141)年9歳の時、父が殺され、その遺言により叔父の観覚について出家、13歳で比叡山の源光に師事し、次いで皇円について天台教学を学んだ。その後、自己の仏教を求めて18歳で黒谷青竜寺の叡空をたずね、法然房と号し、以後25年間隠遁修行した。求道の末、唐の善導が著した「観無量寿経疏(観経疏)」により念仏の道を見出し、43歳で比叡山を後にした。やがて有名になるにつれて弟子も増え、関白九条兼実ら貴族をはじめとして多くの帰依者を得た。

一方、巨大な新興仏教勢力として既成教団を脅かす存在となったため、旧仏教からの非難も日増しにはげしくなった。その結果、比叡山延暦寺や興福寺などが朝廷に念仏禁止を訴え、建永2(1207)年2月、ついに専修念仏は禁止され、法然は讃岐(香川県)に配流された。同年8月赦免されたが入洛は許されず摂津勝尾寺にとどまり、建暦元(1211)年11月、ようやく帰洛が許されて東山大谷の禅房に住した。しかし翌年の建暦2(1212)年の正月25日、80年の生涯を閉じた。

法然の門人には、幸西、弁長、隆寛、証空、長西、親鸞などがあり、弁長の鎮西流が今日の浄土宗、証空の流れが西山浄土宗である。また親鸞の流れが浄土真宗となった。

Great Books 47 選択本願念仏集(せんちやくほんがんねんぶつしゅう)

『選択本願念仏集』は、建久9(1198)年、日記『玉葉』の作者として知られる九条兼実くじょうかねざねの依頼により、法然66歳の時に撰述されたものであり、法然が長年にわたって説いてきた念仏の中心問題を体系的に組み立てて、浄土宗を理論的に基礎づけた根本聖典のひとつである。

その内容は、念仏の教えを説き示した『無量寿経』、『観無量寿経』、『阿弥陀経』の浄土三部経や阿弥陀仏によって選択された本願念仏に関する要文を集め、三つの選択をとおして仏道修行のすべては**称名念仏(しょうみょうねんぶつ)**の一行にあることを明したものである。構成は16の章で組まれており、諸経論を引用し、善導の釈義により経意を述べたのち、末尾に私釈段を設け、法然自身の解釈を明示している。

『選択本願念仏集』の中で法然の思想をもっとも簡潔にあらわしているのが、第16章の「それ速やかに・・・故なり」までの81字の部分である。浄土宗第三祖の良忠は原文を16句に分け、この文は『選択本願念仏集』一部を要約したものであるとし、「この16句は集の大意なり」(『選択伝弘決疑鈔』巻5)と述べており、これによりこの81字は「略選択」とも呼ばれている。

この時代は保元・平治の乱、源平合戦が相続く末法の世であり、そうした時代背景の中で、法然は罪業深い凡夫に残された唯一の救いの道は、ただ弥陀の慈悲心にあずかるほかに方法はない。これが浄土門であり、易行道としての称名念仏であると説いている。この法然の教えを体現した『選択本願念仏集』の最大の意義は、従来の貴族の身分と富力によって独占されていた浄土の道を、身分も財産も才学もない庶民に開放したところにある。

なお『選択本願念仏集』は鎌倉時代の思想を代表する論理形式を備えており、この論理形式は法然以降に開立をみる新仏教の祖師の理論に多大な影響を与えた。

Key Word 称名念仏

それ速やかにしょうじ生死を離れむと欲はば、二種しょうぼうの勝法の中に、しばらく聖道門しょうどうもんを闇さしおいて、浄土門に選入すべし。浄土門に入らむと欲はば、正雑しょうぞうにぎょう二行の中に、しばらくもろもろの雑行なげすを抛なげすてて、選じてまさに正行しょうじょうに帰すべし。正行を修せむと欲はば、正助しょうじょにぎょう二業の中に、なほし助業しょうじょうを傍なげすにして、選じてまさに正定しょうじょうを専らにすべし。正定の業とは、即ちこれ仏名ぶつなを称するなり。み名を称すれば、必ず生ずることを得。仏の本願によるが故なり。

< 大橋俊雄(校注)『選択本願念仏集』第16章 岩波書店 >

(現代語訳)

よくよく考えてみると、生まれかわり死にかわる迷い苦しみに満ちた生活をのがれたいと思えば、二つの勝れた方法がある中、しばらく自力による悟りの道(聖道門)をそのままにしておいて、阿弥陀の他力にすがる救いの道(浄土門)を選ぶようにせよ。救いの道を求めようと思えば、これにひとすじのつとめ(正行)と、さまざまなつとめ(雑行)がある中、しばらくさまざまなつとめを投げ捨てて、ひとすじのつとめを選び、心を打ち込むようにせよ。ひとすじのつとめに励もうと思えば、必ず救われる正しいはたらき(正定業)と、助けとなるはたらき(助業)がある中、助けとなるはたらきを傍らにおき、必ず救われる正しいはたらきを選び、ひたすらつとめるようにせよ。必ず救われる正しいはたらきとは、とりもなおさず阿弥陀仏のみ名をとなえることである。み名をとなえれば、必ず浄土に救われる。何故かといえば、阿弥陀仏の誓いにならっているからである。

『法然全集第2巻』を元にし、一部注を加えた。

◆ *Great Books* 文献案内

- 📖 選択本願念仏集(岩波文庫) / 大橋俊雄(校注)
岩波書店 1997年刊 215p <1188/ホ> 資料番号 20931077
- 📖 法然・一遍(原典日本仏教の思想) / 大橋俊雄(校注)
岩波書店 1991年刊 487p <182.1Z/4/5> 資料番号 20358347
- 📖 法然全集 第2巻 / 大橋俊雄(著)
春秋社 1989年刊 352, 5p <188.6/107/2> 資料番号 20172482
- 📖 選択集 / 服部英淳(訳著)
大東出版社 1980年刊 238p <188.6/60> 資料番号 10283414
- 📖 日本思想大系 10 法然・一遍 / 大橋俊雄(校注)
岩波書店 1971年刊 487p <081.6/28/10> 資料番号 10149896
- 📖 日本の名著5 法然 / 塚本善隆(編)
中央公論社 1971年刊 502p <081.6/34/5> 資料番号 12785010

◆ 理解を深めるために 参考文献案内

- 📖 浄土仏教の思想 第8巻 法然 / 梅原猛(著)
講談社 2000年刊 455p <188.6Z/205/8> 資料番号 21316674
- 📖 法然讃歌(中公新書) / 寺内大吉(著)
中央公論新社 2000年刊 257p <188.6ZJ/12> 資料番号 21236955
- 📖 法然(講談社学術文庫) / 大橋俊雄(著)
講談社 1998年刊 354p <188.6Z/10> 資料番号 21034780
- 📖 法然辞典 / 藤井正雄(ほか編)
東京堂出版 1997年刊 330p <188.6Z/9> 常置(相談室) 資料番号 20968863
- 📖 法然全集 全5巻 / 大橋俊雄(著)
春秋社 1989~1994年刊 <188.6/107/1~5>
- 📖 法然入門 / 大橋俊雄(著)
春秋社 1989年刊 270p <188.6/106> 資料番号 20145397
- 📖 高僧伝5 法然 / 藤井正雄(著)
集英社 1986年刊 275p <180.28/13/5> 資料番号 12319307
- 📖 法然上人の思想と生涯 / 佛教大学(編)
東方出版 1984年刊 188p <188.6/96> 資料番号 12322277
- 📖 日本の仏教6 本願念仏のえらび / 数江教一(著)
筑摩書房 1967年刊 278p <180.8/103/6> 資料番号 13458617